

第5節

教育文化

歴史文化が息づき上牧っ子を育むまちづくり

- 5-1 生涯学習
- 5-2 生涯スポーツ
- 5-3 人権教育
- 5-4 学校教育
- 5-5 就学前教育
- 5-6 文化財

歴史文化が息づき
上牧っ子を育むまちづくり

生涯学習

目指す姿

誰もが学ぶことに
喜びを感じることでできるまち

変化するライフスタイルや多様なニーズに応じた学びの場の提供により、子どもから高齢者まで町内の人々が交流しながら自由に学び、学ぶことに喜びを感じられるまちを目指します。

5-1



総合戦略



現況と課題

- 2006年(平成18年)に改正された「教育基本法」第3条に「生涯学習の理念」として、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現」を目指すことが明記されています。上牧町では、様々な機関・団体等によって、文化、芸術、レクリエーション活動など、あらゆる分野において生涯学習が推進されています。
- グローバル化や少子高齢化、ライフスタイルの変化などにより、近年は学習に対するニーズが多様化してきています。そのような状況の中で、生涯学習は学びの機会のほか、生きがいづくりや地域コミュニティの形成、町民の多世代交流などの機会としても期待が高まっています。一方で、子どもや現役世代の受講者が少なく、参加しやすい環境を整える必要があります。
- 今後は学校教育との連携事業や行政と地域・家庭・事業者が連携できるシステムを構築するなど、多様な学習ニーズに応じた生涯学習の機会及び技能を發揮する場を提供し、町全体で生涯学習社会を築き上げるまちづくりを推進する必要があります。
- 上牧町では、学校施設のみならず地域と行政の協働と町民同士の助け合いによる教育体制として、「学校・地域パートナーシップ事業」や「まきっ子塾」*1を実施しています。これらの事業を通じて、地域コミュニティの形成や多世代交流機会の創出につながっています。
- 環境の変化等に伴い、今後、文化教室へのニーズは多様化することが考えられます。課題や時機を適切にとらえた生涯学習機会の確保など、さらなる創意工夫を行い、受講促進に向けて取り組んでいく必要があります。
- 2001年(平成13年)12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行されたことにより、すべての子どもが自主的に読書活動ができるよう、環境整備を推進することが求められています。



ジュニアリーダー研修

関係する町の条例・計画等

- 上牧の学び推進プラン(上牧町教育振興基本計画)
<2021年(令和3年)3月>
- 上牧町教育大綱<2022年(令和4年)4月>
- 上牧町地域福祉計画及び地域福祉活動計画
<2021年(令和3年)3月>
- 第2期上牧町子ども・子育て支援事業計画
<2020年(令和2年)3月>
- 上牧町自殺対策計画<2020年(令和2年)3月>

施策の展開方向

① 生涯学習機会の充実

担当 社会教育課 / 文化振興課

- 社会教育委員会議を核として、生涯学習機会の充実を目指して生涯学習体制の構築に努めます。
- 各地区や団体の多彩な生涯学習活動の充実に努めます。
- 文化創造の推進にあたり、文化活動の場を確保するとともに、子どもや現役世代も参加しやすい仕組みの構築に努めます。
- 町民の教養を深めるとともに、健康増進等を図るため、文化教室の魅力向上や受講促進に努めます。また、作品等を披露する場として文化協会等と連携しながらペガサスホールを活用していきます。

② 青少年の健全育成

担当 社会教育課

- 地域で子どもを育てる活動を推進するとともに、青少年に様々な活動や学習の機会を提供し、あわせて指導者の養成に努めます。

③ 多世代交流機会の創出

担当 社会教育課

- 優れた能力・技術・豊富な知識・経験を有する高齢者と子どもや若者が交流する機会を創出することで、高齢者が技能を発揮する場を提供するとともに、子どもや若者の学びに対する関心や興味、好奇心の喚起を図ります。
- 学校との連携を図り、子どもたちの教育について、主体となる学校教育に加え、地域全体で支援する体制づくりを進めます。

④ 子どもの読書活動の推進

担当 文化振興課

- すべての子どもが自主的に読書活動できるよう、本の楽しさを知る機会と本との出会いの場を提供します。

想定される取組

- 行政・地域・家庭・学校・民間との連携体制の構築
- 町民の自己表現の場の提供
- 持続可能な生涯学習体制の構築
- 文化教室の魅力向上及び受講促進

- 青少年の生涯学習機会の確保と次世代の育成 ▶ [戦略①](#)

- 多世代交流による学習機会の創出
- 学校支援事業の運営 ▶ [戦略①](#)

- 学校と連携した読書活動の推進 ▶ [戦略①](#)
- 「おはなし会」の実施
- 読書環境の整備

成果指標

項目	KPI			総合戦略 KPI
	基準値 (R2)		目標値 (R8)	
学校支援ボランティア登録者数(年間)	238人	↗	250人	1-1-②
ジュニアリーダー研修新規登録者数(年間)	—	↗	10人	1-1-⑥
生涯学習事業への参加者数(年間)	231人	↗	280人	

※その他の成果指標はP.101参照

協働アクション

(町民・民間事業者・地域団体の取組)

- 町民は、町民ボランティアとして学校・地域パートナーシップ事業に積極的に参加します。
- 町民は、文化教室や文化協会のクラブ活動などに積極的に参加します。
- 町民は、学習支援アドバイザーとして、まきっ子塾に積極的に協力するとともに、行政に対し教職OBの紹介をするなど、情報共有に努めます。

用語解説

※1 「まきっ子塾」

町内小学校1～3年生を対象に規範意識の向上や家庭学習の習慣を身に付けることを目指した放課後学習塾です。(なお、対象については見直しを行う可能性があります)

教育文化

歴史文化が息づき
上牧っ子を育むまちづくり

生涯スポーツ

目指す姿

誰もが気軽にスポーツ・
レクリエーションを
楽しめるまち

町民の誰もが、いつでも、どこ
でも、いつまでも、気軽にスポーツ・
レクリエーションを楽しめるまちを
目指します。

5-2



総合戦略



現況と課題

- 上牧町では、幅広い年齢層の町民が活発にスポーツを行っており、スポーツ少年団やシルバークラブ等、様々なクラブの団体活動が近年ますます盛んになっています。
- 今後は、リタイア世代の余暇時間の増加に伴い、健康や生きがいづくり、地域コミュニティの再生などの役割を担うことも期待されます。
- 上牧町のスポーツ施設は老朽化が著しく、これまでも補修を実施してきましたが、施設の長寿命化に向けて、計画的な維持・改修を図る必要があります。
- 町民一人ひとりのライフスタイルや年齢、体力、運動技能、興味等に応じて生涯にわたり様々な形でスポーツと関わりを持ち、暮らしの中にスポーツやレクリエーションを取り入れられるよう、町民や関係団体と連携したスポーツ活動などの機会の創出が必要です。

関係する町の条例・計画等

上牧の学び推進プラン(上牧町教育振興基本計画)
<2021年(令和3年)3月>

上牧町教育大綱
<2022年(令和4年)4月>

上牧町地域福祉計画及び地域福祉活動計画
<2021年(令和3年)3月>

施策の展開方向

① スポーツ施設の整備

担当 社会教育課

- グラウンドやテニスコート、町民体育館等のスポーツ施設の適切な維持・改修に努めます。

② スポーツ活動の振興

担当 社会教育課

- 誰もが気軽に楽しめるニュースポーツの普及に努めます。
- 2016年(平成28年)に設立された町民が主体となる「総合型地域スポーツクラブ」と連携し、幅広い年齢層の町民がスポーツを行うことができる機会を確保します。
- 地域において、トップスポーツチームやトップアスリートと触れ合う機会を創出するなど、地域やスポーツの活性化に努めます。

想定される取組

- 計画的な維持・改修によるスポーツ施設の長寿命化
- 各種スポーツ大会やスポーツ活動などの事業の推進
- スポーツ団体と連携したスポーツ活動の基盤づくり
- ニュースポーツの普及啓発活動の実施

成果指標

項目	KPI		総合戦略 KPI
	基準値 (R2)	目標値 (R8)	
スポーツ施設利用申込件数(年間)	4,062件	↑ 4,300件	
ニュースポーツ備品貸出件数(年間)	—	↑ 50件	

協働アクション

(町民・民間事業者・地域団体の取組)

- 町民、地域団体は、体育大会や各種スポーツ大会に参加するとともに、運営においても支援します。
- 町民、地域団体は、地域の一員として、ニュースポーツの普及啓発活動の支援を行います。
- 民間事業者は、各種スポーツ大会への協賛など、スポーツ振興に協力します。



ニュースポーツの普及啓発活動(ボッチャ)



町長杯ソフトボール大会

歴史文化が息づき
上牧っ子を育むまちづくり

人権教育

目指す姿

人権尊重の精神が 息づくまち

町民の一人ひとりが、人権の大切さを自覚し、すべての人を大切にできる差別のない明るいまちづくりを目指します。

5-3



総合戦略



現況と課題

- 人権問題は日々多様な形で発生する可能性のある問題であり、同和問題をはじめ依然として子ども、ジェンダー^{※1}、障がい者、高齢者、人種、外国人に対する偏見など、多くの人権問題が存在しており、近年ではインターネットやSNS上での匿名による人権侵害などの新たな形態も出現しています。
- 上牧町においては、行政・各校園・各種団体等が連携したヒューマンライツセミナーなどを開催し、実践的な取組を強化しています。町民一人ひとりが理解を深め、地域全体で人権を守る意識を高めるためには、今後も継続的に取り組んでいく必要があります。

関係する町の条例・計画等

- 上牧の学び推進プラン(上牧町教育振興基本計画)
<2021年(令和3年)3月>
- 上牧町教育大綱
<2022年(令和4年)4月>
- 上牧町あらゆる差別の解消の推進に関する条例
<2021年(令和3年)9月>

施策の展開方向

① 人権教育の推進

担当 社会教育課

- 規範・人権意識の醸成に向け、学校・家庭・地域が一体となった道徳教育や福祉教育、人権教育を推進します。
- ヒューマンライツセミナーや指導者研修会等を開催し、人権学習の継続と発展を推進します。

想定される取組

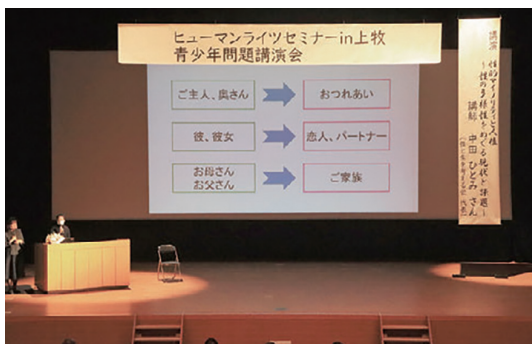
- 学校・家庭・地域の連携による人権教育の推進 ▶ 戦略①

成果指標

項目	KPI			総合戦略 KPI
	基準値 (R2)	目標値 (R8)		
ヒューマンライツセミナー新規受講者数(累計)	—	↑ 50人		1-1-②

協働アクション (町民・民間事業者・地域団体の取組)

- 町民は、日常生活において個人の尊重や平等の意識を持つように努めます。
- 町民は、人権教育研修会や講演会に参加し、人権に対する理解を深めます。
- 民間事業者は、社員の人権教育などに取り組みます。



ヒューマンライツセミナー



指導者研修会

用語解説

※1 「ジェンダー」

生物学的な性別 (sex) に対して、社会的・文化的な役割としての性別 (gender) のことを指します。

歴史文化が息づき
上牧っ子を育むまちづくり

学校教育

目指す姿

子どもの能力を 伸ばせるまち

学校・家庭・地域が連携した
上牧町独自の教育体制・教育環
境の充実により、児童生徒一人ひ
とりの能力・学力を伸ばすこと
のできるまちを目指します。

5-4



総合戦略



現況と課題

- 近年、子どもたちを取り巻く社会状況は著しく変化しており、教育的な課題については時流に即した対応が必要です。全国的にはGIGAスクール構想^{※1}に始まるICTを活用した教育が進められており、児童生徒に対する1人1台の端末の整備などハード面の整備が完了し、授業への活用が進んでいます。今後は、デジタル教科書などのデジタルコンテンツや、AIといった先端技術の活用について検討を行うなど、デジタルならではの学びの充実を図っていく必要があります。また、デジタル化の推進に伴い、文字を書くことや手書きの計算など、手を使って考える機会や、本や新聞などの一定量の文章を読む機会が少なくなっていることが懸念されますので、「書力」や「読み取る力」を低下させない対応も求められています。
- 上牧町においては、学校施設の改修が課題であったことから、安全安心で快適な学習環境を確保するために耐震化及び大規模改修を中心とする施設の整備に取り組んできました。また、教職員等の資質向上に向けた研修の実施や外国人教師による英語教育の実施など、教育環境の向上・児童生徒の学力向上に努めるとともに、障がい児(者)等に配慮した教育についても、特別の指導を受ける通級指導の拡大や施設整備を行ってきました。その他、新型コロナウイルス感染症拡大を契機に、児童生徒を感染リスクから守る環境整備も求められています。
- いじめや登校拒否、交通安全、防犯対策などの教育に関する様々な課題についても、児童福祉、警察等の関係機関との連携により対応してきましたが、特にいじめ問題については、近年、SNSの普及などにより問題が複雑化しており、児童生徒へのケアが求められています。
- 児童生徒自身が学習への意欲を高めることで自主的な学習態度を育成できるよう、家庭教育の重要性の周知や時代に対応した施設整備・設備導入など、学力向上に向けたさらなる教育環境の充実が求められています。
- 人口減少が進展する中、特に年少人口の減少が顕著にあらわれており、小・中学校が小規模化することによって、集団学習・集団活動で得られる教育効果の低下が懸念されています。
- エネルギーなどの資源の枯渇、地球温暖化などの環境問題、世界平和といった、単一の国では解決できない様々な問題への対応に迫られています。国際社会の一員として、あらゆる国の人々が互いに協力し合い、物事を地球規模でとらえ、課題解決に向けて力を発揮できる「グローバル人材」の育成が求められています。

関係する町の条例・計画等

上牧の学び推進プラン(上牧町教育振興基本計画)
<2021年(令和3年)3月>

上牧町教育大綱
<2022年(令和4年)4月>

第2期上牧町子ども・子育て支援事業計画
<2020年(令和2年)3月>

上牧町第6期障がい福祉計画
<2021年(令和3年)3月>

上牧町学校適正化基本計画
<2022年(令和4年)3月>

施策の展開方向

① 学習環境の充実

担当 ▶ 教育総務課

- 安全安心で快適な学習環境を提供するため、計画的に設備・備品等を整備します。
- 学校現場のニーズを勘案し、時代に対応したICT環境の充実を図るとともに、アナログとの融合を図り、デジタル化の推進による弊害に対応した学習環境の確保に努めます。
- 「上牧町学校適正化基本計画」に沿って、望ましい学校教育環境の整備に取り組みます。

② 子どもへの学習支援

担当 ▶ 社会教育課

- すべての児童生徒の学習意欲の向上や家庭における学習習慣の体得を図るため、学習支援の機会の確保と充実に努めます。

③ 安心して学べる教育環境の充実

担当 ▶ 教育総務課

- 障がいに応じた特別の指導を行う必要がある児童生徒に対する特別な学習機会の提供に努めます。
- 不登校の児童生徒への支援や就学指導支援体制の充実を図るとともに、児童生徒の様々な悩み(学力・人間関係・いじめ等)に対する相談体制の強化に努めます。

④ ふるさと教育の充実

担当 ▶ 教育総務課

- 奈良県や上牧町の現状に向き合い、ふるさとの魅力や普遍的な価値に気づき、ふるさとの愛着や誇りを育むことを目的に、職場体験を通じて県や地域、町民、学校が連携したふるさと教育を行い、上牧町の将来を担う人材育成に努めます。

⑤ グローバル人材の育成

担当 ▶ 教育総務課

- 豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解を身につけたグローバル人材の育成に努めます。

想定される取組

- 学校施設及び備品等の整備
- ICTを活用した教育支援 ▶ 自戦略①
- 学校適正化に向けた協議及び環境整備

- 様々な専門講座の開催 ▶ 自戦略①
- 学習支援教室(まきっ子塾)の開催 ▶ 自戦略①

- 通級指導教室(ペガサス教室)の充実 ▶ 自戦略①
- 教育相談体制の充実
- 行政・地域・家庭・学校との連携の構築

- キャリア教育及び職業教育の実施 ▶ 自戦略①

- 国際交流事業(世界に伍して活躍するグローバル人材の上牧町育成事業)の推進 ▶ 自戦略①
- 国際交流授業の実施

成果指標

項目	KPI			総合戦略 KPI
	基準値 (R2)		目標値 (R8)	
教員向け研修開催回数(年間)	2回	→	2回	1-1-①
県内企業や地域との交流活動回数(年間)	2回	↗	3回	1-1-⑥
国際交流事業実施回数(累計)	—	↗	5回	1-1-⑦

※その他の成果指標はP.101参照

協働アクション (町民・民間事業者・地域団体の取組)

- 町民(保護者)は、家庭教育の重要性を理解し、その実践に取り組みます。
- 町民(保護者)は、子どもが利用するICT教材について理解を深め、家庭での適切な指導に努めます。
- 町民は、国際交流事業への積極的な参加・協力を努めます。
- 町民は、子どもが抱えている悩みを解決できるように、積極的に協力します。

用語解説

※1 「GIGAスクール構想」義務教育を受ける児童生徒のために、1人に1台の端末と高速ネットワークなどを整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現する構想のことです。

歴史文化が息づき
上牧っ子を育むまちづくり

就学前教育

目指す姿

上牧らしい
幼児教育環境が
充実したまち

上牧らしい幼児教育環境が充実し、多様化する社会ニーズや国際化に対応できる子どもが育つまちを目指します。

5-5



総合戦略



現況と課題

- 近年の子どもを取り巻く状況を見ると、少子化や高齢夫婦世帯、共働き世帯の増加に加え、町民同士のつながりの希薄化など、家庭や地域の子育て力・教育力が低下しており、環境として厳しい現実があります。
- 子どもたちの生活体験や自然体験の不足、他者との交流機会の減少が、基本的な生活習慣の未習得、自制心や耐性・規範意識の未熟、運動能力の低下などにつながっていると指摘されており、就学前教育は人間形成の基礎を培う重要な役割を担っているといえます。
- 上牧町においては、就学前教育の取組として幼稚園における施設的环境整備を中心とした就学前教育の機能の拡大や教職員等の資質の向上を図ってきました。また、家庭や地域においても教育力を再生・向上させ、家庭・地域・幼稚園の三者がそれぞれの教育機能を発揮し、総合的に幼児教育を提供することで、子どもの健やかな成長を支えてきました。
- 環境整備については、外で遊ぶことができないときや室内で過ごす時間にも学べる室内での知育玩具等をさらに充実させて、幼児期の教育にふさわしい頭・体・心を育てる環境を整えるとともに、子どもの発達に応じた適切な指導を通して、質の高い就学前教育を提供できるよう取り組む必要があります。
- 幼稚園から小学校への接続が円滑に行われるよう、情報提供の充実や教育内容等の一層の連携が求められます。
- 就学前教育と保育の役割はそれぞれ幼稚園と保育所が担っていますが、「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律(認定こども園法)」の施行に伴い、これら施設における幼保一元化がさらに求められることが予測されるため、今後検討が必要になっています。

関係する町の条例・計画等

- 上牧の学び推進プラン(上牧町教育振興基本計画)
<2021年(令和3年)3月>
- 上牧町教育大綱
<2022年(令和4年)4月>
- 第2期上牧町子ども・子育て支援事業計画
<2020年(令和2年)3月>

施策の展開方向

① 幼児教育の充実

担当 ▶ 教育総務課 / こども未来課

- 近年の少子化とニーズの多様化に対応するため、幼児教育の環境の充実を図るとともに、地域や小学校との連携を進めるなど、上牧らしい教育環境整備を推進します。
- 家庭や地域と幼稚園が一体となって幼児の成長を温かく見守れる教育環境の構築に努めます。
- 幼児の心身の発達段階を考慮しつつ、のびのびとした環境の中で、幼児の個性や主体性、協調性、社会性の育成に努めます。
- 障がい児等の受入体制の強化など、幼稚園教育の一層の充実に努めます。
- 教育環境を充実させるため、施設等の改修や教材の充実に努めます。
- 教諭と幼児の信頼関係を築き、幼児とともによりよい教育環境を創造するように努めます。
- 多様化する教育内容に対応できるよう、研修や視察活動などを積極的に取り入れ、教育者の資質の維持・向上を図ります。
- 就学前の児童に対して、教育、保育等を総合的に推進するため、幼稚園と保育所機能の一体化に向けた取組を検討します。

想定される取組

- 就学前の学習環境の充実 ▶ 自戦略①
- 未就学児と地域・小学校の連携事業の推進
- 認定こども園の設置(幼保一元化)に係る検討

成果指標

項目	KPI			総合戦略 KPI
	基準値 (R2)	目標値 (R8)		
幼稚園児と小学校児童との交流回数(年間)	—	3回	↑	1-1-④

協働アクション

(町民・民間事業者・地域団体の取組)

- 町民(保護者)は、保護者同士の交流を積極的に行い、地域における子育て環境の充実に努めます。



幼稚園と小学校の交流



幼稚園での英語教室

教育文化

歴史文化が息づき
上牧っ子を育むまちづくり

文化財

目指す姿

郷土の歴史文化を 見つめ育むまち

町内の文化財について学び親しむことで、町民が郷土に誇りや愛着を持ち、次世代に歴史文化を継承していくまちを目指します。

5-6



総合戦略



現況と課題

- 上牧町には史跡上牧久渡古墳群や片岡城跡等の歴史資源が点在します。中でも、史跡上牧久渡古墳群は2012年度(平成24年度)から3か年計画で保存のための発掘調査を行い、その結果、重要な古墳群として認められ国史跡指定を受けました。
- 町内の歴史・文化資源は公園や観光ルート拠点として整備を進めていく予定です。あわせて、歴史ガイドボランティアなどの人材育成に努めるとともに、その他の町内に点在する歴史・文化資源についても調査を進め、町の重要な歴史・文化資源として保存・管理していく必要があります。
- 地域教育の観点からは、歴史・文化資産の教材化に努め、次世代に歴史文化を継承する取組も進める必要があります。

上牧町の遺産と遺物ガイドブック

上牧町では、史跡上牧久渡古墳群が2015年(平成27年)10月7日に上牧町で初めての国史跡に指定されました。史跡上牧久渡古墳群を中心に上牧町の文化財について、「ふるさと上牧の歴史遺産」として1冊のガイドブックにまとめました。社会教育課で配布しています。



上牧町の遺跡と遺物ガイドブック

関係する町の条例・計画等

- 上牧の学び推進プラン(上牧町教育振興基本計画)
<2021年(令和3年)3月>
- 上牧町教育大綱
<2022年(令和4年)4月>
- 上牧町文化財保護条例
<2018年(平成30年)9月>

施策の展開方向

① 歴史文化の保全

担当 社会教育課

- 上牧町内に点在する歴史・文化資源の掘り起こしと情報発信の充実に取り組みます。
- 町民が歴史資産の価値や魅力を再認識し、郷土の誇りとして感じられるように、町民の共有財産として保全し、後世に受け継ぐとともに、魅力の発信に取り組みます。
- 史跡上牧久渡古墳群の整備及び教材化と文化財等の調査と活用研究を進めます。

想定される取組

- 史跡上牧久渡古墳群を中心とした文化財の保存及び整備の推進
▶ 戦略③
- 歴史ガイドボランティアの養成
▶ 戦略③
- 片岡城跡をはじめとする文化財の活用に関する調査・研究

成果指標

項目	KPI			総合戦略 KPI
	基準値 (R2)		目標値 (R8)	
史跡上牧久渡古墳群の整備	用地買収100 整備40	↗	整備完了	3-1-②
歴史ガイドボランティアの養成人数 (目標年度終了時点)	18人	↗	30人	3-2-①

協働アクション

(町民・民間事業者・
地域団体の取組)

- 町民は、歴史・文化資源への知識を深めます。
- 町民は、歴史ボランティア養成講座などへの積極的な参加や、身近な人への周知に努めます。



史跡上牧久渡古墳群



歴史ガイドボランティア養成講座